

雄先生（子昭39）の乾杯の音頭で宴に移りました。ご来賓の西関先生からは、多くの写真を用いながら片平地区や仙台市中心部の現況および国立大学法人としての東北大学の展望についてご紹介いただき、出席者の多くがその変化の大きさに驚いていました。続いて、幹事の田所嘉昭先生（子昭42）による豊橋技術科学大学の紹介、中部電力（株）の鈴木孝治氏（電平12）によるオンラインTSCの紹介があり、各々興味深く聞くことができました。

その後、各大学・企業の代表の方々から近況等を交え

でのスピーチを頂きました。歓談の後、次回幹事となる（株）デンソーを代表して塚本晃氏（通昭60）並びに岐阜大学の中村隆先生（電通博昭52）より次回総会への決意表明をして頂き、盛会を誓い合いました。そして、恒例の「青葉萌ゆる」大合唱の後、常任幹事の愛知工業大学森正和先生（子昭48）による閉会の辞で締めくくりました。

最後に、母校および同窓会本部の発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、今後とも一層のご指導をお願いする次第です。

## 長尾重夫先生を偲んで

電気・通信工学専攻 教授 犬竹 正 明

東北大学名誉教授長尾重夫先生は平成17年12月24日に逝去されました。享年86歳でした。謹んで哀悼の意を表します。

長尾重夫先生は大正8年に鳥取県にお生まれになり、昭和18年北海道大学理学部を卒業されました。ご卒業後ただちに電気試験所に入所されましたが、昭和27年本学工学部助教授に迎えられ、昭和35年に教授として電気工学科第4講座・高電圧工学講座を担当されました。昭和37年名古屋大学プラズマ研究所創設のため転出されましたが、昭和41年本学に戻られ、その後昭和43年に原子核工学科に移られ、昭和57年に定年退官されました。

先生のご専門はプラズマ物理学と核融合工学であり、我国の核融合研究の草分けのお一人として指導的な役割を果たされました。初期の研究のうちで最も著名なものは、パルス放電プラズマ中でアルヴェン波の存在を初めて実証されたことでもあります。名大プラズマ研時代には、直線型QP装置を建設し高周波によるプラズマ加熱法を確立され、我国のプラズマ・核融合研究の隆盛につながる基礎を築くと共に、多くの人材を育成されました。

東北大学に戻られた後、プラズマの磁界閉じ込め方式の研究に力を注がれ、現在の球状トラスの原型ともいえる低アスペクト比多極磁界配位など数多くの新しいア

イデアを出されました。就中、昭和48年に発表した立体磁気軸系ヘリカル閉じ込め方式があります。米国ではヘリカル形状の磁界配位は磁気流体的に不安定であるという理由で研究を中止してしまいましたが、先生は、プラズマの圧力を考慮すると磁気流体的に安定になることを理論的に解明され、アスペレータNPシリーズとして実験の段階にまで発展させました。先生のアイデアと軌を一にした研究が現在も活発に続けられています。



先生は後進の教育にも情熱を注がれ、門下生には第一線で活躍している研究者が多数いらっしゃいます。また、本学量子エネルギー工学専攻の笹尾真美子教授は、先生のご息女であり、国際熱核融合実験炉（ITER）で予想される核融合燃焼プラズマの計測分野で活躍されています。昨年夏の工学部オープンキャンパスの折、先生は笹尾教授とご一緒に退官教授懇談会にご出席頂き、最高齢の名誉教授としてお元気にご挨拶いただいたばかりでした。

謹んで長尾重夫先生のご冥福をお祈り申し上げます。

## 退職教授のご紹介

### 青井基先生ご退職

電気通信研究所21世紀情報通信研究開発センター研究開発部ストレージ分野の教授として活躍された青井基教授が、平成18年3月31日をもって本学を定年退職されました。



青井先生は、昭和17年4月に岡山県児島郡（現岡山市）にお生まれになりました。昭和43年3月に横浜国立大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程を修了され、同年4月に（株）日立製作所に入社、中央研究所に配属となられ、平成3年1月にはハードディスク関係の研究により横浜国立大学より工学博士を取得されています。平成5年6月にストレージシステム事業部に転属となり、技術開発本部主管技師としてご活躍の後、平成14年3月に日立製作所を退職され、同年4月に電気通信研究所21世紀情報通信研究開発センター研究開